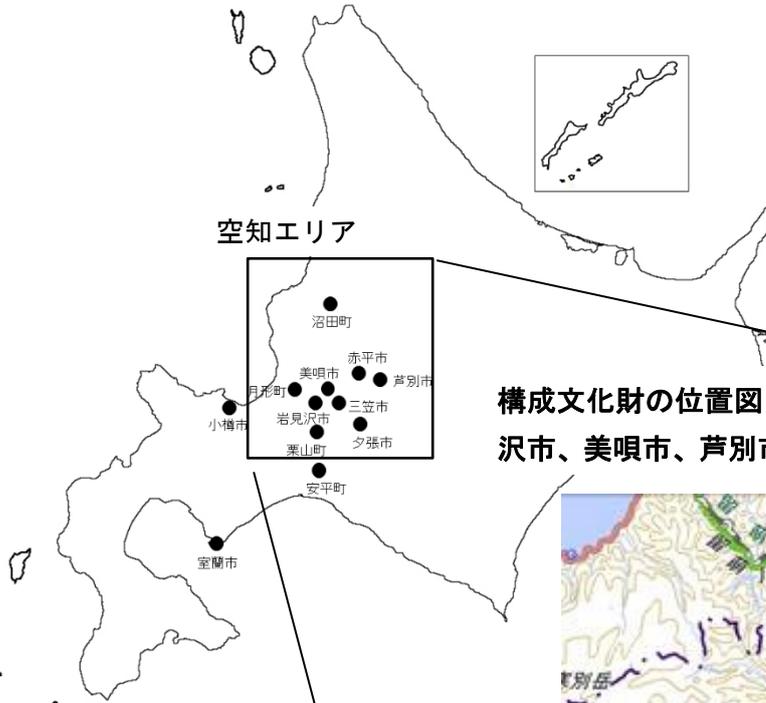


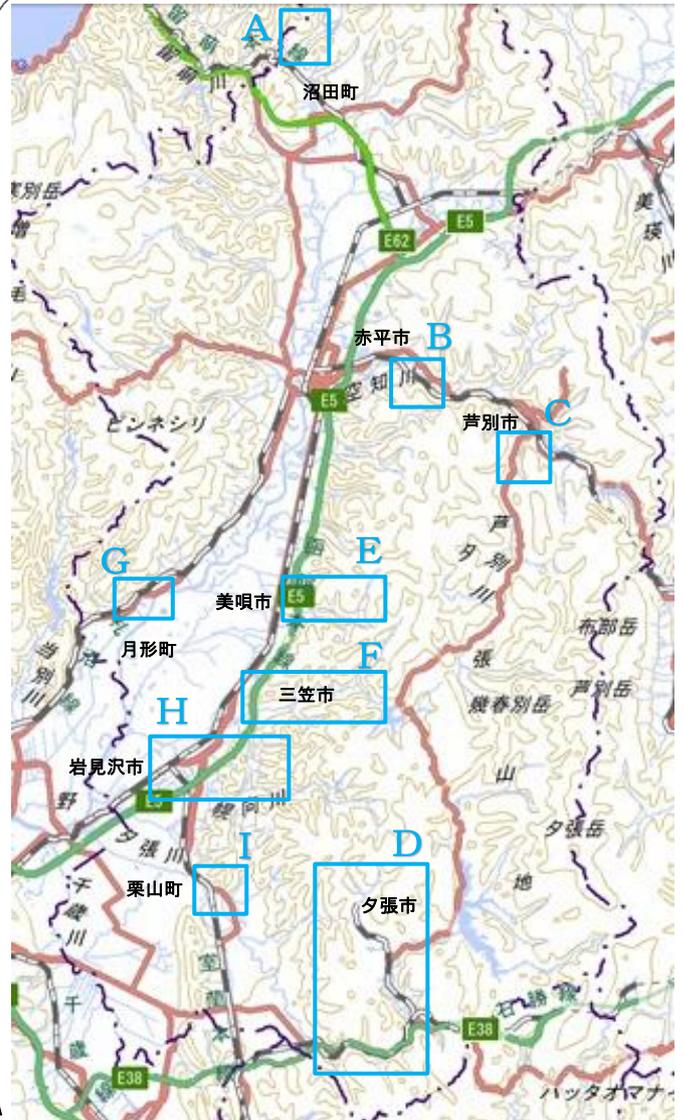
<b>① 申請者</b>	◎北海道赤平市、小樽市、室蘭市、夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、三笠市、栗山町、月形町、沼田町、安平町	<b>② タイプ</b>	地域型 / シリアル型 A B C D E
<b>③ タイトル</b>			
(ふりがな)	ほんぼうこくさくをほっかいどうにみよ！～きたのさんぎょうかくめい「たんてつこう」～		
○本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～			
<b>④ ストーリーの概要（200字程度）</b>			
<p>明治の初めに命名された広大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」・「鉄鋼」・「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。</p> <p>当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。</p> <p>100 km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらします。</p> <div data-bbox="1082 913 1433 1144"></div> <p data-bbox="1171 1160 1362 1189">鉄道(クラウス 15号)</p> <div data-bbox="245 1279 616 1525"></div> <p data-bbox="309 1532 564 1561">炭鉱(住友芦別炭鉱立坑槽)</p> <div data-bbox="655 1279 1026 1525"></div> <p data-bbox="746 1532 938 1561">鉄鋼(室蘭工場夜景)</p> <div data-bbox="1074 1279 1428 1525"></div> <p data-bbox="1139 1532 1362 1561">港湾(小樽港北防波堤)</p>			



### 市町村の位置図（北海道地図）



構成文化財の位置図（空知エリア：赤平市、夕張市、岩見沢市、美幌市、芦別市、三笠市、栗山町、月形町、沼田町）



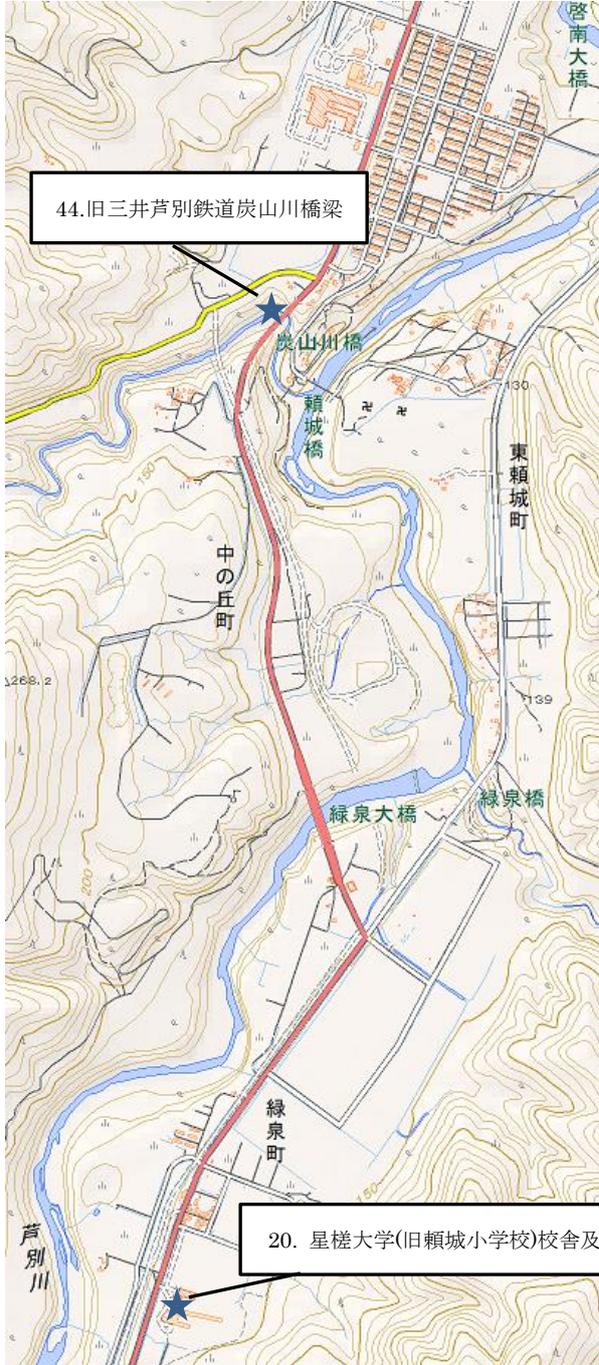
A 沼田町



B 赤平市



C 芦別市



D 夕張市



E 美唄市



F 三笠市



G 月形町



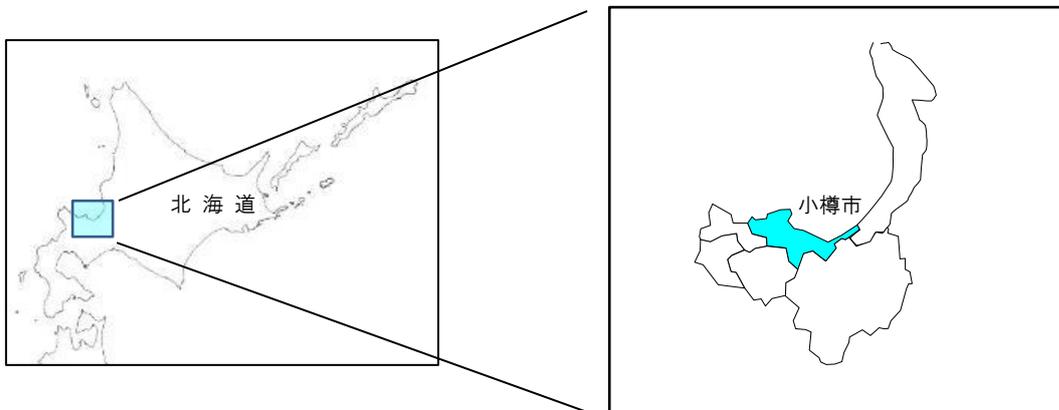
H 岩見沢市



I 栗山町



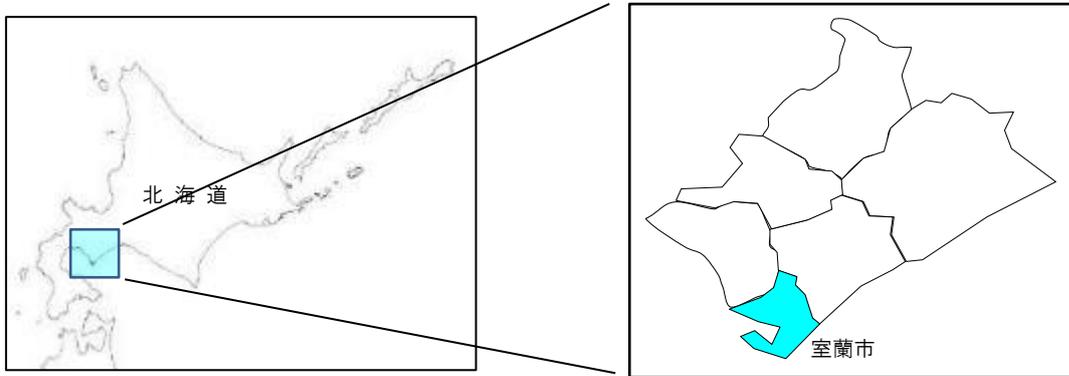
### 市町村の位置図 (小樽市)



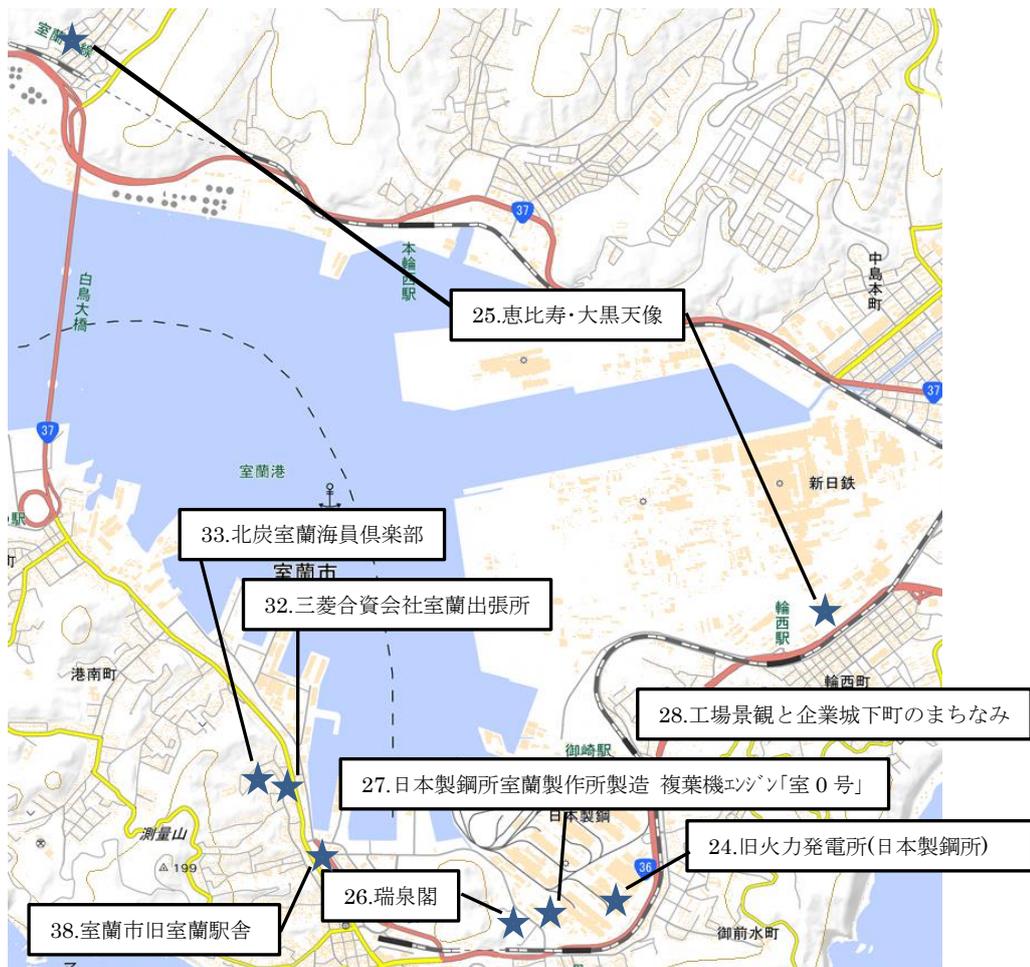
### 構成文化財の位置図 (小樽市)



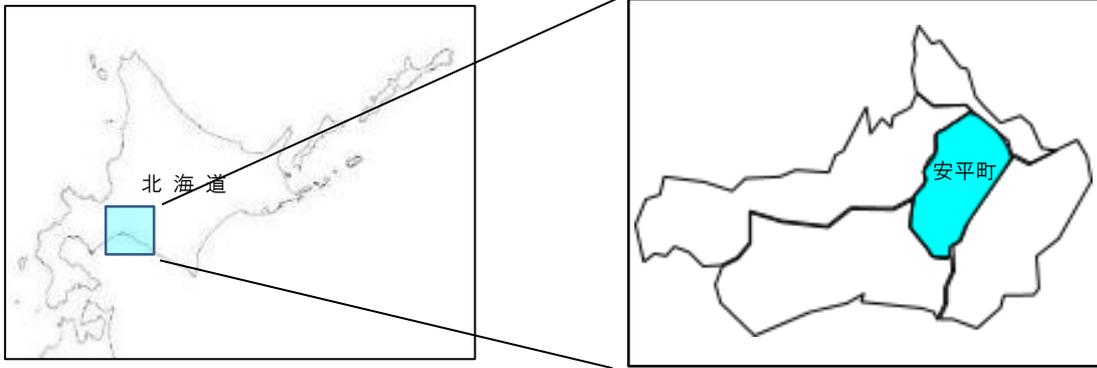
### 市町村の位置図 (室蘭市)



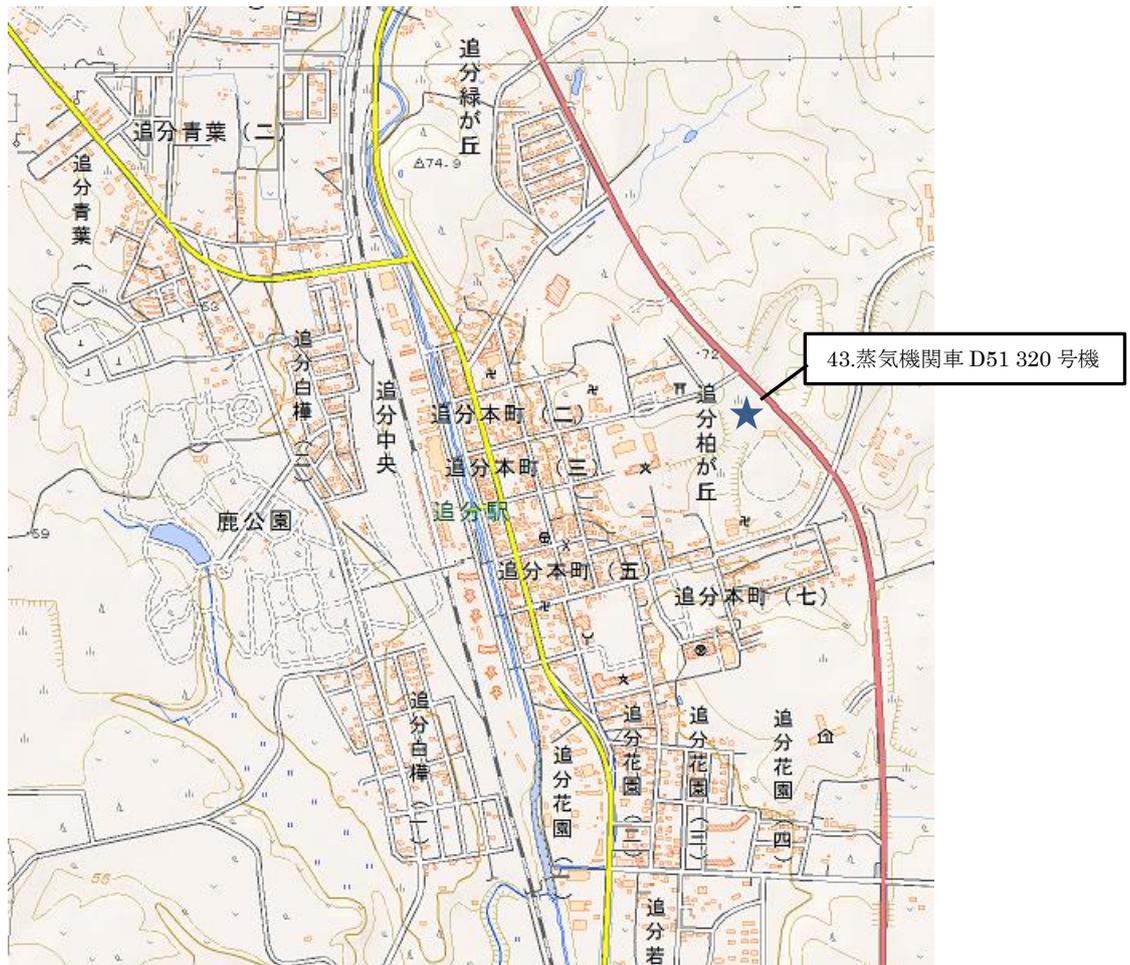
### 構成文化財の位置図 (室蘭市)



### 市町村の位置図 (安平町)



### 構成文化財の位置図 (安平町)



## ストーリー

## ■炭鉄港との出会いー石炭、鉄鋼、港湾、鉄道ー

札幌から北東に向けて車で1時間、空知地方をドライブしていると、街並みの中に異彩を放つ、高さ44mの巨大な鉄塔が見えてきます。これは平成6年に閉山した住友赤平炭鉱の立坑櫓で、東京スカイツリーよりも深い地下650mから石炭を揚げていた操業当時の雰



住友赤平炭鉱立坑櫓とその内部

囲気を、そのままに残す圧倒的な存在感と機能美、そして元炭鉱マンのガイドが見学者を魅了します。

空知の石炭を基軸に、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾、これらを繋ぐ炭鉄鉄道によって繰り広げられた近代化の物語「炭鉄港」。世界遺産〈明治日本の産業革命遺産〉と同じ源流を持ちながら、開拓から製鉄までわずか30年という短期間で独自の発展を遂げた「北の産業革命」であり、その歴史をひも解くと、これまで気づけなかった北海道の新たな魅力が目の前に広がります。

## ■北海道の開拓ー炭鉄港のはじまりー

年間約800万人もの観光客が訪れる【小樽】。観光客に人気の高い「運河」や「古いまちなみ」を語るには「近代」のストーリーが欠かせません。

北海道は、明治になって、資源開発と北方警備の観点から国策として開拓が進められました。そのため、国家財政が約2千万円/年のところ、5年で1千万円という開拓計画が立てられ、西洋の技術も積極的に導入されました。

その象徴的な存在が、【空知】の炭鉄開発でした。ライマンの調査により、石炭が豊富に埋蔵していることがわかり、明治12年に幌内炭鉄（三笠市）が開鉄、明治15年にはその石炭を運ぶための小樽～幌内間（約90km、当時の日本最長）の鉄道が、クロフォードらによりわずか3年で完成しました。同時に労働力確保のため2つの集治監（監獄）が開かれ、一大国家プロジェクトとして《炭鉄港》の物語はスタートしたのです。

炭鉄と鉄道は、後に北海道炭礦鉄道会社（北炭）に払い下げられ、【室蘭】への鉄道延伸が進められたことで、室蘭は石炭積出港として取扱量が急激に増え、北海道三番目の特別輸出港に指定されました。その後、鉄道は再国有化され、北炭は売却資金をもとに、空知の石炭を使った鉄鋼業に進出、室蘭は鉄のまちへと変貌していきます。



石炭を運ぶ機関車を格納した機関車庫三号



港と工場が織りなす室蘭の夜景

## ■富国強兵と領土拡大ー炭鉄港の発展ー

【小樽】は、明治30年代には、我が国初の本格的港湾として北防波堤の整備が進むなど、北海道随一の港町となっていました。第1次世界大戦での世界的な農産物の高騰を背景に、北海道産品の輸出港として更なる発展を遂げました。小樽から道内各地へ鉄道網が伸びたことから、産品を容易に入手できたためです。

また、第1次世界大戦は、【空知】の炭鉄にも大きな変化をもたらしました。採掘現場が次第に深くなり生産量も拡大する中、欧州製機器の輸入が困難となったため、国産技術による電化や機械化が進ん

だのです。立坑が続々と掘削され、新鉱開発が活発化するなど、技術革新の時代を迎えました。

【室蘭】の製鉄は、生産・経営とも初めは順調に行きませんでした。昭和9年の日本製鉄への合併を機に一転、大增産体制へと向かいました。

### ■戦後復興とエネルギー革命—炭鉄港の活躍と衰退—

第2次世界大戦後、昭和40年代からいち早く衰退の兆しが現れたのも【小樽】でした。輸入原材料の調達に不利な日本海側にあったため、太平洋側にある苫小牧港との競争に破れ、商業・金融機能も次々と札幌へと移転していきました。

一方、【空知】【室蘭】は、戦後復興のため炭鉱と鉄鋼業に優先して資源が投入され大活躍しました。戦争被害が比較的軽微で、豊富な石炭を持つ北海道が戦後日本の再出発に不可欠だったのです。しかし、昭和30年代後半には状況が一変、エネルギー革命により石油が急激に普及し石炭に取って代わります。

【空知】では、「スクラップ=ビルド政策」に沿った大規模投資により操業を効率化、生産コストを削減し、生き残りへの最後の懸命な努力が重ねられます。しかし、大勢に抗うことはできず多くの炭鉱が閉山。史上最大の産業転換政策である「石炭政策」によって、5万人の労働者が空知を去りました。

【室蘭】も、小樽と同様に苫小牧港に物流機能が移るとともに、国内臨海部の新鋭製鉄所の出現により次第に地位を低下させます。日本が高度成長へとまい進する中で、《炭鉄港》は国策による使命を完全に終えたのです。

### ■未来に向けた「知の旅」—炭鉄港のこれから—

その後、地域の歴史を見つめ直し、新たな価値を見出すまちづくりが、再び【小樽】から始まりました。歴史遺産を生かした「歴史とロマンの街 小樽」として、多くの観光客が訪れています。また、【空知】や【室蘭】でも地域の歴史や産業遺産を生かしたまちづくりが進んでいます。

さらに《炭鉄港》は、世界遺産〈明治日本の産業革命遺産〉の出発点である薩摩を源流とする点でもユニークです。薩摩藩主・島津斉彬は、日本初の西洋式工場群「集成館事業」を推進し西欧からの脅威に対抗しましたが、ロシアによる北方の脅威にも危機感を抱き、軍事力に加え産業が必要と考え、その思いが家臣団に引き継がれます。そのため北海道開拓では多くの薩摩出身者が要職を占め、ビール醸造（現・サッポロビール）や屯田兵、米国技術者招聘など、新たな技術・制度が積極的に導入されました。

《炭鉄港》エリアには、当時を物語る多くの産業遺産が残されているほか、「なんこ」や「室蘭やきとり」をはじめとした独特の食文化が生まれ、今なお地元の方々に愛されています。

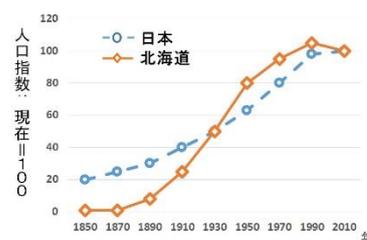
成長と衰退、そして新たなまちづくりに向かうという《炭鉄港》のドラマチックな変化を実感することは、日本が直面する人口減少・少子高齢化の先取りとして、未来に向けたヒントと新たな価値観に出会うことができる、「知の旅」なのです。



技術開発により進化する立坑



労働者に愛された酒蔵とスタミナ源の室蘭やきとり



急増した北海道の人口状況



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
<b>炭 鉱</b>				
①	そらちがわるとうたんそう 空知川露頭炭層	未指定 (地質鉱物)	1857年に松浦武四郎が発見、その後榎本武揚や開拓使に雇われた地質学者ライマンらが調査をし、空知で初めての炭層が確認された。	赤平市
②	ほくたんほろないたんこうおとわこう 北炭幌内炭鉱音羽坑	未指定 (建造物)	1879年、幌内炭鉱で最初に開削された延長約700mの坑道。北海道近代炭鉱の端緒となった。	三笠市
③	かぼとしゅうじかんほんちようしゃ 樺戸集治監本庁舎 つきがたかぼとほくぶつかん (月形樺戸博物館) そらちしゅうじかん 空知集治監 てんごくかんしや 典獄官舎レンガ煙突	市町有形 (建造物)	樺戸集治監は1881年、空知集治監は1882年に設置され、受刑者は開拓のため道路開削や炭鉱労働に従事した。	月形町 三笠市
④	ゆうばりせきたんだいるとう 夕張の石炭大露頭 ゆうばりしやくそう 「夕張24尺層」	道天然記念物 (地質鉱物)	1888年に、道庁技師・坂市太郎によって発見された。厚さ約7.3mと大規模で貴重なものであるとともに、夕張の歴史の起点である。	夕張市
⑤	こばやししゅうぞうけんぞうぶつぐん 小林酒造建造物群	国登録有形 (建造物)	1897年栗山町に移転。周辺の炭鉱労働者に愛され出荷数を伸ばした。敷地内にはレンガや軟石による蔵が点在し、町の景観を形成している。	栗山町
⑥	きゅうほくたんゆうばりたんこう 旧北炭夕張炭鉱 てんりゆうこう 天龍坑	国登録有形 (建造物)	1900年に開坑。入気・排気の坑口が対になって残っていること、赤レンガの化粧坑口が意匠的に美しいことが特徴である。	夕張市
⑦	やまきりく 炭鉱の記憶マネジ メントセンター石蔵 いしくら	未指定 (建造物)	1909年に建築された石蔵で、鉄道で繁栄した時代の面影を今も残している。2009年から「炭鉱の記憶」の情報拠点として運営。	岩見沢市
⑧	ゆうばりろくめいかん 夕張鹿鳴館 ほくたんしかたに (旧北炭鹿ノ谷 くらぶ 倶楽部)	国登録有形 (建造物)	1913年開設。北炭の賓客や会社幹部の宿泊・会合に用いられた福利施設で、1954年に昭和天皇が宿泊した際に、寝室・炊事場を大改造した。	夕張市
⑨	ほろないへんでんしよ 幌内変電所	未指定 (建造物)	1919年に建設された。夕張～歌志内間約100kmの自家発送電線網の中間に位置し、長距離送電黎明期の数少ない施設として貴重である。	三笠市
⑩	ほくたんいくしゅんべつたんこう 北炭幾春別炭鉱 にしきたてこうや 錦立坑櫓	未指定 (建造物)	1919年に掘削。立坑深度214m、立坑櫓高さ約10mで、現存する立坑としては道内最古。電気が動力として使用され始めた頃の立坑。	三笠市

⑪	みつびしびばいたんこう 三菱美唄炭鉱 たてこうやぐら 竪坑槽	未指定 (建造物)	1923年に建設された、道内で2番目に古い竪坑。排気・入気用の2本の竪坑が並び、現在は炭鉱メモリアル森林公園として公開。	美唄市
⑫	きゅうほくたんだきのうえ 旧北炭滝ノ上 すいりよくはつでんじよ 水力発電所	未指定 (建造物)	1925年に運転開始。北炭が所有する炭鉱の動力源として建設され、発電された電気は100km離れた歌志内まで送られた。	夕張市
⑬	ほくたんしんほろないこうこうぐち 北炭新幌内鉱坑口	未指定 (建造物)	3度のガス爆発事故に遭いながら1934年に出炭開始。坑内メタンガス利用の先駆的な存在であった。	三笠市
⑭	きゅうほくたんゆうばりたんこう 旧北炭夕張炭鉱 もぎこうどう 模擬坑道 ゆうばりしせきたんはくぶつかん (夕張市石炭博物館)	国登録有形 (建造物)	天龍坑の補助坑道を一部利用して1939年に見学用坑道として整備。地下で実物の炭層や採炭機械を見学できる国内でも珍しい施設。	夕張市
⑮	きゅうほくたんしみずさわ 旧北炭清水沢 すいりよくはつでんじよ 水力発電所	未指定 (建造物)	滝ノ上水力発電所と同様、炭鉱の動力源として建設され1940年に運転開始。	夕張市
⑯	ほくたんあかまたんこう やま 北炭赤間炭鉱ズリ山	未指定 (文化的景観)	採掘した石炭を選別した残滓であるズリを積み上げた山。赤平市のランドマークになっており、ズリ山階段数(直線部分777段)は日本一。	赤平市
⑰	さいたんきゅうこくこうふ ぞう 採炭救国坑夫の像	市有形 (美術工芸品)	1944年に制作されたコンクリート製の塑像(高さ3.63m)。炭都・夕張のシンボルとして市民に親しまれ、戦時美術品としても価値がある。	夕張市
⑱	じんみんさいばん え 人民裁判の絵	未指定 (美術工芸品)	人民裁判は、戦後労働運動の象徴的な事件として知られ、労働条件の向上を求める労組が、会館で幹部職員を36時間にわたって拘束した大衆団交の様子を伝える。	美唄市
⑲	きゅうさかえしょうがっこう 旧栄小学校 やすだかんちようこくびじゆつかん (安田侃彫刻美術館 びばい アルテヒ°アツツァ美唄)	未指定 (建造物)	1950年に炭鉱町で開校。1959年には30学級・1,250名となりピークを迎えた。現在は彫刻家安田侃氏の作品を展示する美術館として活用。	美唄市
⑳	せいさだいがく 星槎大学 きゅうらいじょうしょうがっこう (旧頼城小学校) こうしやおよ たいいくかん 校舎及び体育館	国登録有形 (建造物)	1954年建設。校舎は36教室、一線校舎の全長106mと長大な外壁総れんが積、体育館は屋根を支える木骨トラスの幾何学的形状が特徴的。	芦別市
㉑	みかさしやくしよちようしや 三笠市役所庁舎	未指定 (建造物)	1956年竣工。Y字型の形状は、当時話題となった東京厚生病院と酷似しており、市制施行を目前にした産炭都市の勢いを感じさせる。	三笠市
㉒	すみともぼんべつたんこう 住友奔別炭鉱 たてこうやぐら しゅうへんしせつ 立坑槽・周辺施設	未指定 (建造物)	1960年建設。ドイツの技術を導入し、合理化の旗手として注目されたが、わずか12年で閉山。	三笠市
㉓	すみともあかびらたんこう 住友赤平炭鉱 たてこうやぐら しゅうへんしせつ 立坑槽・周辺施設	未指定 (建造物)	1963年建設。住友奔別の改良型。1日2回、ガイド付きで建屋内部を見学できる貴重な施設で、石炭産業のスケールを体感できる。	赤平市

鉄 鋼				
②4	きゅうかりよくはつでんじょ 旧火力発電所 にほんせいこうじょ (日本製鋼所)	未指定 (建造物)	1909年に建設された煉瓦造の火力発電施設。鉄鋼生産に必要な電力を自社発電するため、英国から輸入した発電機などが格納されていた。	室蘭市
②5	えびす だいこくてんざう 恵比寿・大黒天像	未指定 (美術工芸品)	1909年に室蘭で初めて製造された鉄を用いて制作された。高炉の火入れを記念して関係者に贈呈されたもの。	室蘭市
②6	ずいせんかく 瑞泉閣	未指定 (建造物)	1911年に建設された宿泊・接待のための施設。大正天皇が皇太子時代に、日本製鋼所室蘭製作所を視察の際、宿泊所として建設された。	室蘭市
②7	にほんせいこうじょむらoran 日本製鋼所室蘭 せいさくじょせいぞう ふくようき 製作所製造 複葉機 エンジン「室0号」	市有形 (美術工芸品)	1918年に日本製鋼所が製作した日本最初の航空機エンジン。陸軍からの正式受注を受け、わが国初の制式航空発動機として完成した。	室蘭市
②8	こうじょうけいかん きぎょう 工場景観と企業 じょうかまち 城下町のまちなみ	未指定 (文化的景観)	港の周囲の工場群は、夜景観賞の人気スポットとなっている。また製鉄所付近には、最盛期の面影を残す商店街や施設などが残っている。	室蘭市
港 湾				
②9	おたるこうきたぼうはてい 小樽港北防波堤	未指定 (建造物)	1908年、広井勇によりわが国初の本格的港湾整備として建設。100年以上を経過した現在も、「第一線防波堤」としてその機能を果たしている。	小樽市
③0	ほくたん きそ 北炭ローダー基礎	未指定 (建造物)	1939年建設。鉄道で運んだ石炭を船に積み込むための機械が据え付けられていた基礎、小樽港に唯一現存する石炭積み出しの痕跡。	小樽市
③1	いろないぎんこうがい 色内銀行街 きゅうみついぶつさんおよ じふ (旧三井物産及び旧 みつびししょうじおたるしてん 三菱商事小樽支店)	未指定 (建造物)	日本銀行、三井銀行をはじめとする明治から昭和にかけて建設された大手銀行が建ち並び、石炭を扱った商社の支店が当時の栄華を今に伝えている。	小樽市
③2	きゅうみつびしこうしがいしゃ 旧三菱合資会社 むらoranしゅつちようじょ 室蘭出張所	未指定 (建造物)	1914年に建築。戦時中は日本石炭(石炭各社を統合した統制販売会社)の事務所として使用。現在は市民出資による保存団体が所有。	室蘭市
③3	きゅうほくたんむらoranかいいん 旧北炭室蘭海員 倶楽部	未指定 (建造物)	1926年に建築された北炭の海員倶楽部。山荘風の意匠が特徴。北炭の専務取締役であった井上角五郎氏の別荘があった場所に建設された。	室蘭市
鉄 道				
③4	てみやせんあとおよ 手宮線跡及び ふぞくしせつ 附属施設	未指定 (史跡)	手宮線は、1880年に北海道最初の鉄道として開通。市内中心部には、鉄道施設を残したオーブンスペースが整備されている。	小樽市

③⑤	きゅうてみやてつどうしせつ 旧手宮鉄道施設	国重文 (建造物)	機関車庫三号は、1885年竣工の現存するわが国最古の機関車庫。レンガは「フランス」積み。機関車庫一号は1908年に竣工。レンガは「イギリス」積み。	小樽市
③⑥	おたるちゆうおういちば 小樽中央市場	未指定 (建造物)	市場で仕入れた鮮魚やかまぼこをブリキ缶に入れ風呂敷で背負った行商人、通称ガンガン部隊が鉄道を使い空知の産炭地へ向かっていた。	小樽市
③⑦	きゅうほっかいどうたんこうてつどう 旧北海道炭礦鉄道 いわみざわこうじょう 岩見沢工場 いわみざわ (岩見沢レールセンター)	未指定 (建造物)	1899年、手宮工場の分工場として設置。車両の組み立てや機械の製作修理にあたり、現在もJR北海道が使用している。	岩見沢市
③⑧	むらんしきゆうむらんえきしゃ 室蘭市旧室蘭駅舎	国登録有形 (建造物)	1912年に建設。明治の洋風建築の面影を残す屋根や白壁づくりの外観、外回りは入母屋風で「がんぎ」と呼ばれるアーケード様式になっている。	室蘭市
③⑨	あさひえきしゃ 朝日駅舎	未指定 (建造物)	1919年に開駅。万字炭鉱、美流渡炭鉱、朝日炭鉱から石炭を運搬するために開設された万字線の当時の様子を今に伝える。	岩見沢市
④⑩	いわみざわそうしゃじょうあと 岩見沢操車場跡	未指定 (史跡)	1922年に建設が始まった貨車操車場で、1926年には5線群からなる操車場が完成。石炭輸送の中継地として発展した岩見沢の面影が残る。	岩見沢市
④⑪	とうまつえきしゃ 唐松駅舎	未指定 (建造物)	1929年に住友唐松炭鉱の石炭搬出物駅として開駅。待合室と駅事務室の腰折屋根2棟が直交した独特な形態が特徴的である。	三笠市
④⑫	クラウド15号 じょうききかんしゃ 蒸気機関車	町有形 (美術工芸品)	1889年ドイツ・クラウド社で製造された蒸気機関車。九州鉄道に輸入され、1931年に留萌鉄道に譲渡。1967年まで昭和炭鉱で稼働した。	沼田町
④⑬	じょうききかんしゃ 蒸気機関車 D51 320号機	町有形 (美術工芸品)	1939年に製造され小樽築港・追分機関区等に所属、1976年まで石炭輸送等にあたった。現在も元機関士達による手入れが続けられている。	安平町
④⑭	きゅうみつあいしべつてつどう 旧三井芦別鉄道 たんざんがわきょうりょう 炭山川橋梁	国登録有形 (建造物)	1945年に竣工した、三井鉱山専用鉄道の橋梁。鉄橋上にはディーゼル機関車と石炭専用貨車が展示され、当時の運搬の様子を伝えている。	芦別市
④⑮	びばいてつどうとうめいえきしゃ 美唄鉄道東明駅舎 けいしきじゅうりんれんけつ 4110形式十輪連結 タンク機関車2号	未指定(建造物) 市有形 (美術工芸品)	1948年に開業した美唄鉄道の駅舎。機関車は1919年に製造。駅内には当時の広告や時刻表など石炭で栄えた町の記憶が残っている。	美唄市

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

## 構成文化財の写真一覧

①空知川露頭炭層（地表に露出する石炭層）



②北炭幌内炭鉱音羽坑



③樺戸集治監本庁舎



空知集治監典獄官舎レンガ煙突



④夕張の石炭大露頭「夕張 24 尺層」



⑤小林酒造建造物群



⑥旧北炭夕張炭鉱天龍坑



⑦炭鉱の記憶マネジメントセンター



⑧夕張鹿鳴館



⑨幌内変電所



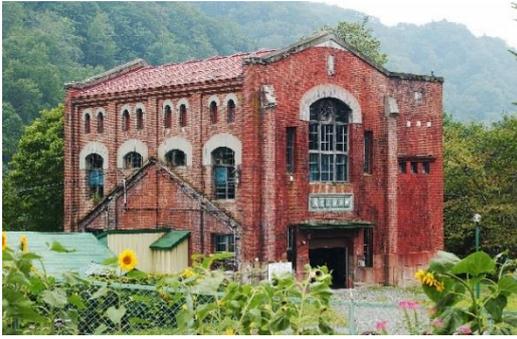
⑩北炭幾春別炭鉱錦立坑櫓



⑪三菱美唄炭鉱堅坑櫓



⑫旧北炭滝ノ上水力発電所



⑬北炭新幌内砦坑口



⑭旧北炭夕張炭鉱模擬坑道



⑮旧北炭清水沢水力発電所



⑯北炭赤間炭鉱ズリ山（頂上からの展望）



⑰採炭救国坑夫の像



⑱人民裁判の絵



⑲旧栄小学校 (安田侃彫刻美術館アルテ・アツツァ美唄)



⑳星槎大学 (旧頼城小学校) 校舎及び体育館 全長106mの校舎



㉑三笠市役所庁舎



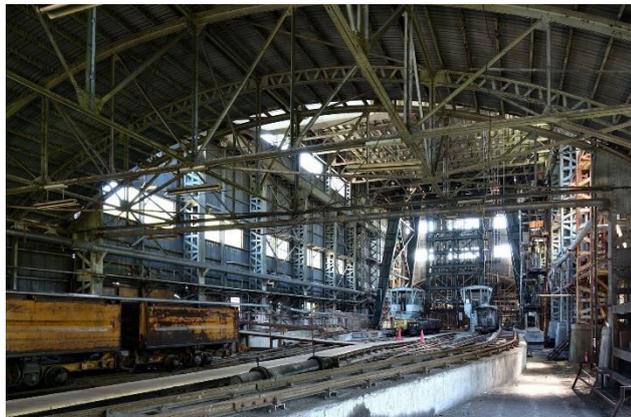
㉒住友奔別炭鉱立坑櫓・周辺施設



⑳住友赤平炭鉱立坑櫓・周辺施設



閉山当時のまま残された立坑櫓内部



㉑旧火力発電所（日本製鋼所）



㉒恵比寿・大黒天像



㉓瑞泉閣



㉔日本製鋼所室蘭製作所製造  
複葉機エンジン「室0号」



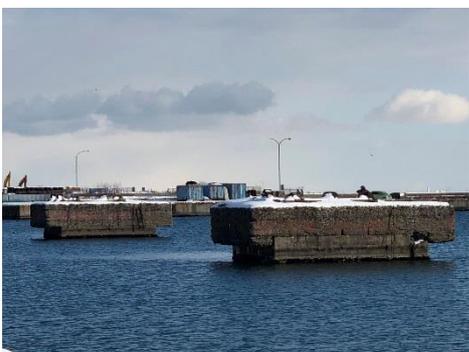
⑳工場景観と企業城下町のまちなみ (夜景)



㉑小樽港北防波堤



㉒北炭ローダー基礎



㉓色内銀行街 (旧三井物産小樽支店)



㉔旧三菱合資会社室蘭出張所



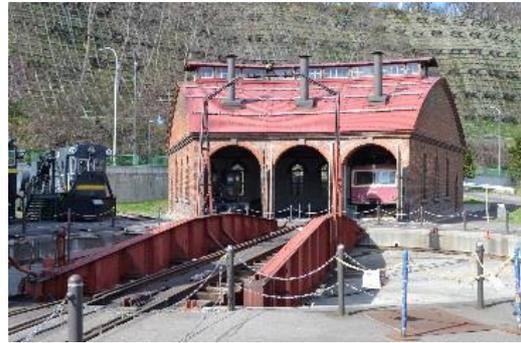
㉕旧北炭室蘭海員倶楽部



③④ 手宮線跡及び附属施設



③⑤ 旧手宮鉄道施設 (機関車庫三号)



③⑥ 小樽中央市場



③⑦ 旧北海道炭礦鉄道岩見沢工場



③⑧ 室蘭市旧室蘭駅舎



③⑨ 朝日駅舎



④⑩ 岩見沢操車場跡



④⑪ 唐松駅舎



④⑫ クラウス 15 号蒸気機関車



④⑬ 蒸気機関車 D51 320 号機



④⑭ 旧三井芦別鉄道炭山川橋梁



④美唄鉄道東明駅舎、4110 形式十輪連結タンク機関車 2 号



# 日本遺産を通じた地域活性化計画

## (1) 将来像 (ビジョン)

北海道の中央に位置し、豊かな農村が広がる空知地方や、多くの観光客で賑わう小樽、鉄の街として賑わう室蘭が、「炭鉄港」を巡るストーリーの下、日本遺産の認定を契機として、これまで以上に連携を深めながら、ヒト・モノ・知識の流れを創出していくことで、住民一人一人が、自らの地域に誇りを抱きながら、再びチャレンジをするための様々なチャンスを生み出すことで、地域の魅力を高め、交流人口の拡大による経済の活性化と同時に、住民が地域社会に関わることで医療費等の社会的費用の低減を図り、多角的な地域活性化を目指します。

また、取組を進めるに当たっては、「炭鉄港」ストーリーとも縁が深く世界遺産（明治日本の産業革命遺産）の認定地域である鹿児島県とも、これまで以上に連携を深め、その関連性について相互に発信を行うなど、取組効果を最大化していきます。

炭鉄港に関する取組の推進については、既に、北海道の計画などに記載されているところですが、今後は、それぞれの地域における中長期計画等に日本遺産を活用した取組を位置づけるなど、日本遺産のブランド力を生かし、地域の魅力をさらに高めていくことを明確に示していきます。

### 将来像のイメージ



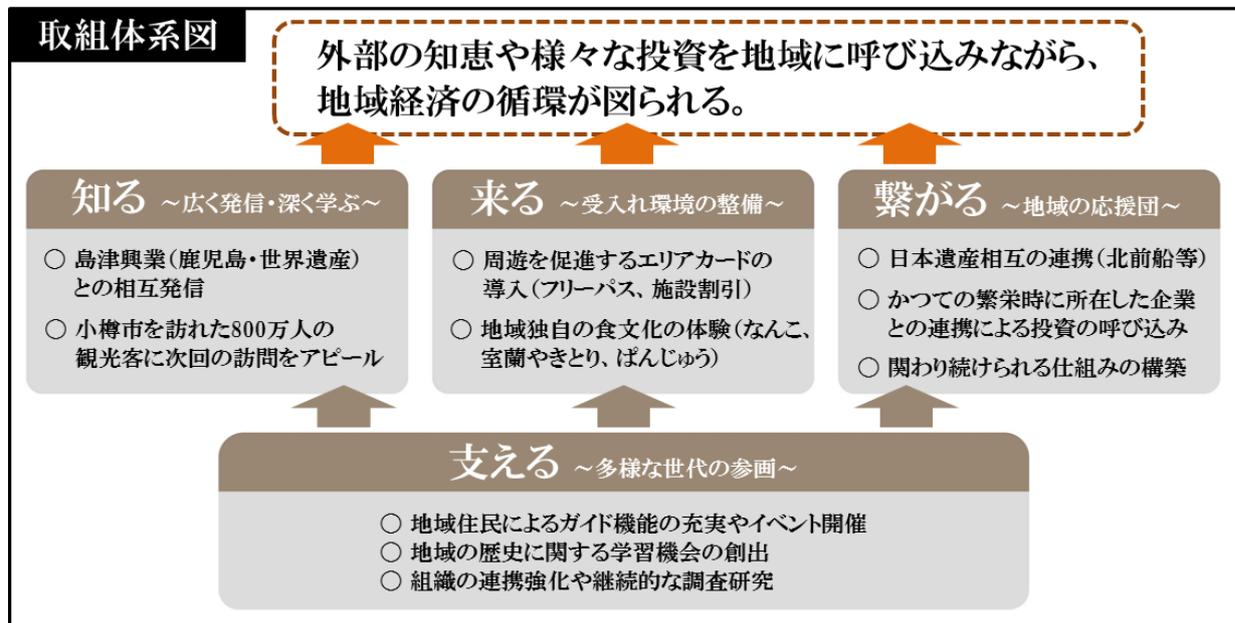
## (2) 地域活性化のための取組の概要

＜はじめに＞

「炭鉄港」のストーリーを構築する各地域では、これまでそれぞれが、炭鉱や鉄、港にまつわる歴史や文化の魅力を生かした地域づくりに取り組んできたところですが、近年、「炭鉄港」ストーリーの下、新たな連携の動きが芽生え、地域間交流が進むとともに、行政や団体だけでなく、住民レベルでも相互理解が深まってきているところです。

今後は、この地域活性化計画に基づき、こうした地域間連携の動きを、さらに加速させるとともに、地域資源の磨き上げや活用を進めることで、シビックプライドの醸成や国内外から多くの観光客を呼び込めるよう、計画的な取組を進めていきます。

### 取組体系図



## <中核となる事業の考え方>

### ①知る～広く発信、深く学ぶ～

■鹿児島県の(株)島津興業と連携し、仙巖園における炭鉄港と鹿児島との歴史的な繋がりをはじめとした情報発信のほか、小樽を訪れる年間800万人の観光客に対し、炭鉄港を知る機会を提供するなど、次回、北海道を訪れる際に炭鉄港地域への来訪を促すよう取組を推進します。

■札幌圏や道内中核都市のほか、首都圏、増加するインバウンドをターゲットとして、「炭鉄港」の魅力幅広く発信するため、ウェブサイトやSNS、パンフレットによる情報発信のほか、ロゴマークや関連グッズの制作、産業遺産とアートとのコラボレーション等により、多くの方々に興味を抱いていただけるよう、取組を展開します。

### ②来る～受入れ環境の整備～

■欧州におけるシティカードを模範とし、地元大手交通事業者との連携による、地域内バスのフリーパスと施設入場料の割引をセットにしたエリアカード導入の検討を進め、利便性と周遊性を高めることでより多くの観光客の来訪を促し、地域との交流機会の拡大を図ります。

■各地域の歴史・文化を背景とした食文化である「美唄焼き鳥」や豚肉を使った「室蘭やきとり」のほか「ガタタン」や「なんこ」、さらには菓子店の集積や日本酒など、独自の食文化の魅力各種イベントとの連携により体験してもらうことで、観光客の総合的な満足度の向上を目指します。

■構成文化財へのサインシステムの整備やガイドアプリの作成、観光客が多く訪れる既存施設内への日本遺産コーナーの設置等により、観光客が容易に理解できる環境の整備を実施します。

### ③繋がる～地域の応援団～

■日本遺産の活用により持続的な地域活性化を図るため、既に認定された日本遺産(例：地域が共通する北前船や銀の馬車道など産業遺産関連等)を持つ地域と相互に連携し、炭鉄港から他の日本遺産へ、他の日本遺産から炭鉄港へといった観光客の流れを創出します。

■これまでの歴史の中でSDGsを実践してきた地域として、かつて炭鉄港地域に所在し発展に寄与した、地域に縁のある企業と連携し、「炭鉄港×SDGs推進ファンド」の設立について検討を行うなど、持続可能な地域開発に寄与していきます。

### ④支える～多様な世代の参画～

■住民自らが日本遺産を守り育てていくとの意識を高めていくため、ガイドの育成やイベントの開催などにより、住民参加の機会を創出し、シビックプライドの醸成を図ります。

■各地域の子どもたちが、自らの住む地域の歴史・文化を学ぶことで、地域への愛着を抱き、地域に住み続けるという選択肢も含めた将来の姿を描くことが出来るよう、副読本等を活用した授業や大学生によるワークショップ等を実施し、子どもたちへの歴史・文化の伝承を進めます。

■協議会組織、構成団体の連携強化や、構成文化財の調査研究を継続して実施することで、日本遺産を通じた地域活性化を支える基盤を整えます。

## (3) 自立的・継続的な取組

■炭鉄港については、平成22年より空知の「特定非営利活動法人炭鉱(やま)の記憶推進事業団」の主管により、室蘭・小樽の観光協会や民間団体が連携して、まち歩きやフォーラムを開催するなどの着実な取組が実施されてきました。その取組を受けて、平成30年7月に日本遺産認定に向け各自治体、観光協会、経済団体、関係民間団体による推進協議会が設置され、今後の取組の推進体制が整備されました。

■認定後については、日本遺産認定に係る補助事業を中心に自立的・継続的に取組を実施していけるよう基盤整備を進め、平成34年度以降は、これまで10年以上にわたり、産炭地域の活性化に取り組んできた「特定非営利活動法人炭鉱(やま)の記憶推進事業団」を中心として、炭鉄港推進協議会の構成員である観光関係者や企業などが連携し、民間が主体となった取組として、体制の再構築を図るなど、持続的な取組体制を構築していきます。

## (4) 実施体制

### ○炭鉄港推進協議会

#### 【構成団体】

- ・小樽市、室蘭市、夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、赤平市、三笠市、上砂川町、栗山町、月形町、沼田町、安平町
- ・北海道(空知総合振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局)
- ・一般社団法人小樽観光協会、一般社団法人室蘭観光協会、夕張観光プロモーション推進協議会、一般社団法人岩見沢市観光協会、美唄観光物産協会、一般社団法人芦別観光協会、赤平観光協会、三笠市観光協会、栗山観光協会、沼田町観光協会
- ・小樽商工会議所、室蘭商工会議所、夕張商工会議所、岩見沢商工会議所、美唄商工会議所、芦別商工会議所、赤平商工会議所、三笠市商工会、栗山商工会議所、月形商工会、沼田町商工会
- ・特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団
- ・国土交通省北海道開発局札幌開発建設部、小樽開発建設部、室蘭開発建設部(オブザーバー)

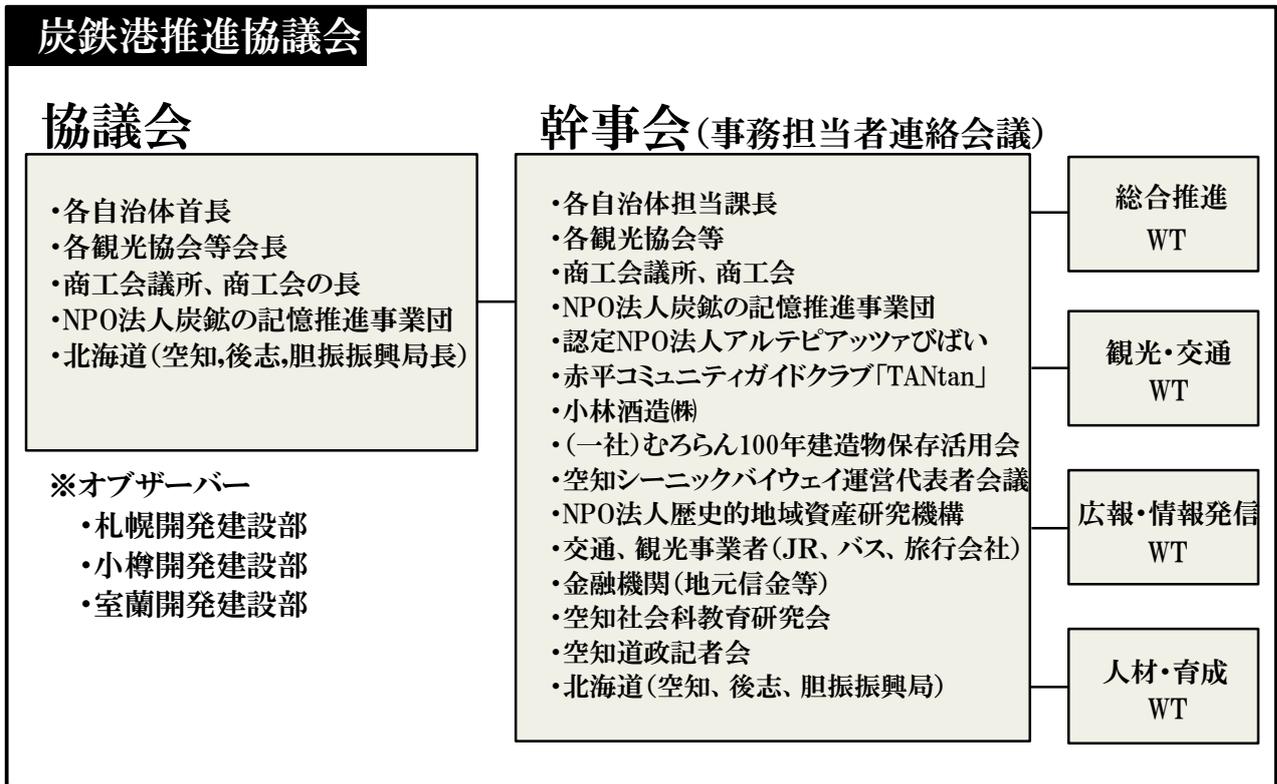
※事務局：赤平市、北海道空知総合振興局

炭鉱遺産を構成する9自治体については、これまで、「そらち『炭鉱(やま)の記憶』で地域づくり推進会議」の構成員として、地域づくり団体等とともに、10年以上にわたり、産炭地振興に取り組んできた実績があり、今年度は夕張市の石炭博物館がリニューアルオープン、また赤平市では炭鉱遺産ガイドダンス施設がオープンするなど、

拠点となる施設が各地に整備され、各地域での「点」の活動から、炭鉄港をテーマとした「面」の活動という連携体制が構築できる環境が整ってきました。日本遺産の申請にあたり設立した「炭鉄港推進協議会」においても、こうした素地を生かしながら、小樽、室蘭を含めた広域的な魅力の発信が期待できます。

また、具体的な取組にあたっては、構成員である各観光協会や経済団体の知見なども生かしながら、持続可能な取組としての確立を目指していきます。

平成34年度以降については、この協議会を継続させながら、実質的な取組主体を特定非営利法人 炭鉄（やま）の記憶推進事業団に移行するなど、民間主導とすることで、より発展的な取組の実施を目指していきます。



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果	定量的評価： 別紙①のとおり								
期待される効果：	<ul style="list-style-type: none"> <li>■かつて炭鉄で栄えた夕張をはじめとした空知地域、鉄鋼業で栄えた室蘭、商業港として栄えた小樽、それらをつなぐ鉄道が、北海道そして日本の近代化を支えてきた歴史的価値を持つ地域であることを再認識し、日本遺産として国内外に発信することで地域の再生、再チャレンジを目指していく。</li> <li>■次世代を担う子ども達が、自らの住む地域の歴史や文化、魅力を学ぶことで、地域への愛着を抱き、地域の未来を考えるきっかけとすることができる。</li> <li>■観光客が認定地域に訪れた際に、この地域を訪れたことが強く印象に残り、また訪れたいと思ってもらえるような体験をしていただくことで、炭鉄港ストーリーの理解の促進に繋がる。</li> <li>■空港や札幌から近隣にあるという立地を生かし、国内外からの観光客の受入体制を整備することで、訪れやすい観光地としての地位を確立することに繋がる。</li> <li>■構成市町村が取り組むジオパークや、地域の観光資源、豊富な食との連携を図ることで、相乗効果による観光客の増加に繋がる。</li> <li>■地域の食文化と、日本遺産を構成する施設を連携させ、効果的に発信することで、重層的な魅力の拡大に繋がるとともに、地域経済への波及効果が期待される。</li> <li>■日本遺産に関する取組を持続的に発展させていくため、協力団体を拡大することで、地域全体の観光振興への機運が高まる。</li> </ul>								
(6) 日本遺産魅力発信推進事業	別紙②のとおり								
補助金額：	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; border-right: 1px solid black;">平成31年度：</td> <td style="width: 25%; border-right: 1px solid black;">40,000千円</td> <td style="width: 25%; border-right: 1px solid black;">平成32年度：</td> <td style="width: 25%;">20,000千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-right: 1px solid black;">平成33年度：</td> <td colspan="2">10,000千円</td> </tr> </table>	平成31年度：	40,000千円	平成32年度：	20,000千円	平成33年度：		10,000千円	
平成31年度：	40,000千円	平成32年度：	20,000千円						
平成33年度：		10,000千円							
(7) その他事業	別紙③のとおり								

## (5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ:	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標:	観光客入込み数
具体的な指標:	協議会構成市町における観光入込客数
関連事業:	(6)①、④、⑥ (7)③、⑧、⑬、⑭、⑮、⑯
目標値:	平成 29 年度 14,764 千人 ⇒ 平成 36 年度 18,911 千人
設定根拠:	平成28年度から平成29年度にかけての構成市町の観光入込客数は2.6%の増であり、日本遺産の認定による効果を踏まえ、北海道全体の対前年度比伸び率3.6%増を目標として設定
設定目標Ⅰ:	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標:	その他
具体的な指標:	主要施設における来場者の満足度
関連事業:	(6)②、⑪ (7)⑨、⑩、⑫、⑳
目標値:	平成 30 年度 未把握 % ⇒ 平成 36 年度 80 %
設定根拠:	満足度が知人への紹介や再来訪に繋がることから、「満足」以上の回答が80%となるよう目標として設定
設定目標Ⅱ:	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標:	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標:	協議会構成市町における地域の文化に誇りを感じる住民の割合
関連事業:	(6)⑦、⑩ (7)⑱、⑳、㉓、㉔
目標値:	平成 30 年度 未把握 % ⇒ 平成 36 年度 50 %
設定根拠:	各構成市町の住民の半数以上が、地域の文化に誇りを感じる状況を目標として設定
設定目標Ⅱ:	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標:	その他
具体的な指標:	新聞記事として掲載された回数
関連事業:	事業全般
目標値:	平成 30 年度 未把握 回 ⇒ 平成 36 年度 72 回
設定根拠:	空知・室蘭・小樽の3地域にて月2回の掲載を目標として設定
設定目標Ⅲ:	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標:	日本遺産への協力団体数
具体的な指標:	炭鉄港推進協議会の構成団体数
関連事業:	(6)③、⑦、⑨ (7)①、②、⑤
目標値:	平成 30 年度 54 団体 ⇒ 平成 36 年度 72 団体
設定根拠:	平成30年度の構成団体に、毎年3団体を加える。

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

## (6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①:	地域連携情報発信事業		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度
補助金額:	平成31年度: 4,000千円	平成32年度: 2,000千円	平成33年度: 0千円
事業概要:	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鹿児島の(株)島津興業(世界遺産「明治日本の産業革命遺産」)との連携</li> <li>○小樽を訪れる観光客への情報発信</li> <li>・炭鉄港との繋がりを鹿児島・仙巖園、小樽市観光物産プラザの来場者にPRし、次の訪問地として炭鉄港地域を選んでもらう。</li> <li>・施設内の一部に炭鉄港コーナーを設置。</li> <li>・関係者によるトークイベント等の開催。</li> </ul>		
具体的な指標:	協議会構成市町における観光入込客数		
目標値:	平成 29 年度 14,764 千人 ⇒ 平成 36 年度 18,911 千人		
事業②:	炭鉄港ポータルサイト構築事業		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度
補助金額:	平成31年度: 6,000千円	平成32年度: 0千円	平成33年度: 0千円
事業概要:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの作成(多言語対応)</li> <li>・構成文化財のガイドアプリの作成</li> </ul>		
具体的な指標:	ホームページ閲覧数(PV)		
目標値:	平成 31 年度 30,000 回 ⇒ 平成 36 年度 100,000 回		
事業③:	パンフレット・啓発物品等制作事業		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度
補助金額:	平成31年度: 2,000千円	平成32年度: 2,000千円	平成33年度: 0千円
事業概要:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語に対応したパンフレットの作成。</li> <li>・炭鉄港に関連した啓発物品(カード、バッジ等)を制作する。</li> </ul>		
具体的な指標:	外国人入込み数		
目標値:	平成 31 年度 100 % ⇒ 平成 36 年度 120 %		
事業④:	炭鉄港地域周遊促進事業		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
補助金額:	平成31年度: 3,000千円	平成32年度: 2,000千円	平成33年度: 1,000千円
事業概要:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元大手交通事業者と連携して、地域内バスのフリーバスと施設入場料の割引をセットにしたエリアカード導入に向け検討を進め、その後方支援としてホームページ等により情報発信するほか、炭鉄港関連施設にアクセスするためのバス時刻表を集約して紙媒体として作成、配布する。</li> <li>・各地域を周遊するモデルルート及びツアーの開発。</li> </ul>		
具体的な指標:	協議会構成市町における観光入込客数		
目標値:	平成 29 年度 14,764 千人 ⇒ 平成 36 年度 18,911 千人		

事業⑤：	ガイド養成事業		
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 500千円	平成33年度： 500千円
事業概要：	・地域の炭鉄港関連施設を案内できるガイドを育成するためのマニュアル作成及び講習等を実施。		
具体的な指標：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数		
目標値：	平成 31 年度 0 人 ⇒ 平成 36 年度 50 人		
事業⑥：	アートプロジェクト事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 2,000千円	平成33年度： 2,000千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで炭鉱遺産を会場としたアートイベントを実施してきた知見を生かし、その場が持つ意味、コンテクストを顕在化するため、美術作品の架設展示やプロジェクトマッピング、炭鉄港を題材とした演劇公演など、アートと日本遺産を組み合わせた事業を実施。</li> <li>施設のライトアップや駅・ホテルなどからのシャトルバスの運行を同時実施。</li> </ul>		
具体的な指標：	協議会構成市町における観光入込客数		
目標値：	平成 29 年度 14,764 千人 ⇒ 平成 36 年度 18,911 千人		
事業⑦：	フォーラム開催事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 1,500千円	平成32年度： 1,000千円	平成33年度： 1,000千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本遺産の認知度の向上と地域の気運醸成を図るため、フォーラムを開催する。</li> <li>世界遺産「明治日本の産業革命遺産」や他の産業遺産に関連する日本遺産認定地域と連携して、今後の活用方策を探る内容とする。</li> <li>1年に1度開催し、3年で空知・室蘭・小樽の3地域を一巡する。</li> </ul>		
具体的な指標：	協議会構成市町における地域の文化に誇りを感じる住民の割合		
目標値：	平成 30 年度 未把握 % ⇒ 平成 36 年度 50 %		
事業⑧：	日本遺産相互連携事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 32 年度 ~ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 1,000千円	平成33年度： 1,000千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に認定された日本遺産（例：地域が共通する北前船や銀の馬車道など産業遺産関連等）を持つ地域と相互に連携し、炭鉄港から他の日本遺産へ、他の日本遺産から炭鉄港へとといった観光客の流れを創出するため、相手先の地域住民を対象としたモニターツアーの開催や相互の情報発信を行う。</li> </ul>		
具体的な指標：	日本遺産の認知度		
目標値：	平成 31 年度 100 % ⇒ 平成 36 年度 120 %		

事業⑨：炭鉄港グルメ普及事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 4,000千円	平成33年度： 2,500千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の炭鉱関連商品を炭鉄港グルメに認定し、グルメマップを作成</li> <li>・各地の食文化を一堂に集めた炭鉄港グルメイベントや、食文化の体験に重点を置いたグルメツアーなどを開催。</li> </ul>		
具体的な指標：	日本遺産の認知度		
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒ 平成 36 年度 120 %
事業⑩：次世代伝承事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 0千円	平成33年度： 500千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の小学生向けに炭鉄港の副読本を作成し、授業などで利用してもらう。</li> <li>・副読本を活用した取組の成果発表会を開催し、子どもたちのほか地域住民の意識向上を図る。</li> <li>・炭鉄港を生かした地域活性化をテーマとした大学生対象のワークショップの開催</li> <li>・石炭ストーブの実演など炭鉄港をテーマとした小中学生対象の体験イベントを開催</li> </ul>		
具体的な指標：	協議会構成市町における地域の文化に誇りを感じる住民の割合		
目標値：	平成 30 年度	未把握 %	⇒ 平成 36 年度 50 %
事業⑪：サインシステム、日本遺産コーナー整備事業			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成31年度： 10,500千円	平成32年度： 5,000千円	平成33年度： 0千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成文化財までのルートや現地での特定のため、空知シーニックバイウェイと連携し、ルートサインや統一的なロゴ、アイコンを使用したサインシステムを整備する。</li> <li>・夕張市石炭博物館、赤平炭鉱遺産ガイダンス施設、旧室蘭駅舎、小樽市総合博物館など既存施設内の一部に、炭鉄港のストーリーや関連施設を紹介する日本遺産コーナーを設置。</li> </ul>		
具体的な指標：	主要施設における来場者の満足度		
目標値：	平成 30 年度	未把握 %	⇒ 平成 36 年度 80 %
事業⑫：歴史文化資源調査研究事業			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 2,000千円	平成32年度： 500千円	平成33年度： 1,500千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炭鉄港関連の歴史文化資源の資料収集・現地調査を行い、デジタルアーカイブを構築する。</li> </ul>		
具体的な指標：	「デジタルアーカイブ」コンテンツの閲覧数		
目標値：	平成 30 年度	(未開設) 件	⇒ 平成 36 年度 10,000 件

## (7) その他事業

地域の将来に向けて			
事業①:	「シーニックパーク (景観公園)」構想の検討		
実施主体:	炭鉄港推進協議会等	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	かつて炭鉱で栄えたドイツ・ルール地方で行われてきた「IBAエムシャーパーク構想」の手法を参考に、これまで10年以上にわたり、空知産炭地域全体を一つの公園に見立てた様々な取組を実施してきたところであり、こうした取組を踏まえ、「炭鉄港」を中心とし、新たに「道路 (シーニックバイウエイ)」や「河川 (石狩川水系河川ネットワーク)」、「史跡 (文化庁)」といった個別の取組を「シーニックパーク (景観公園)」という概念で統合し、地域の歴史・文化・魅力を総合的に発信していくための検討を進める。		
事業②:	地域分散型エネルギー活用システムの構築		
実施主体:	室蘭市、三笠市等	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	かつて日本のエネルギーを支えながらも、未利用のまま空知地方の地下に眠る石炭資源を活用することにより、エネルギーの地産地消を目指した研究・調査が、これまで夕張市や三笠市において行われてきた。地域に所在する国立大学などと連携した研究やフィールドワークを進めるほか、そのプロセスを発信するなど、炭鉄港と新たなエネルギー活用を組み合わせた取組の検討も進めていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの地産地消や新たな産業興しに向けた三笠市と室蘭工業大学による石炭の地下ガス化実験</li> <li>・水素エネルギーの実用・普及をはじめとした室蘭グリーンタウン構想の推進</li> <li>・夕張市が実施した炭層メタンガス開発調査事業の成果の発信</li> </ul>		
事業③:	鉄道を生かした観光拠点の整備		
実施主体:	室蘭市、安平町等	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	小樽市総合博物館や三笠市鉄道記念館などの既存の鉄道関連施設に加えて、観光客増加に向けた相乗効果を図るため、当時使用されていた蒸気機関車を生かした道の駅や観光公園の整備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・室蘭市旧室蘭駅舎へのS L移転と周辺整備</li> <li>・安平町道の駅へのS L移転と周辺整備</li> </ul>		
事業④:	人流・物流ネットワークの形成		
実施主体:	北海道、室蘭市等	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	日本遺産認定を契機として、炭鉄港地域における物流機能に再度焦点を当てることで、室蘭本線鉄道輸送をはじめとした物流や、人の流れの活性化を促進し、産業振興や地域振興を図るための各種取組を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・室蘭本線を核とした物流改革に向けた検討</li> <li>・平成30年6月に開設された岩手県宮古・室蘭フェリー航路を活用した取組の実施</li> <li>・炭鉄港地域を結ぶ観光列車運行に向けた検討</li> <li>・炭鉱地域と富良野市を結ぶ道道美唄富良野線の整備と開通に伴う周辺施設の活用方法の検討</li> </ul>		
事業⑤:	地域を思ふヒトづくり事業		
実施主体:	炭鉄港推進協議会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	「炭鉄港」の日本遺産認定を契機として、地域にルーツを持つ方だけでなく、地域に魅力を感じ、様々なかたちで応援したい、繋がりたい、繰り返し訪れたいという方々と関わり続けられる仕組みを構築・拡大を図ることで、将来的な交流人口の増加、定住人口の増加に繋げていく。		

**知る ～広く発信・深く学ぶ～**

事業⑥：	シーニックバイウェイとの連携		
実施主体：	炭鉄港推進協議会	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	関係するシーニックバイウェイとの連携による相互の情報発信等を実施		
事業⑦：	炭鉱遺産活用促進事業		
実施主体：	北海道	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	炭鉄港マップの作成、パネル展、出前講座、教員対象のモニターツアーの開催		
事業⑧：	教育旅行誘致		
実施主体：	小樽市、三笠市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	小中学校を中心とした炭鉄港遺産等を活用した教育旅行の誘致活動の実施		
事業⑨：	写真や資料、映像等の展示		
実施主体：	岩見沢市、認定NPO法人アルテピアッツァびばい等	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	拠点施設等における写真展等の開催		

**来る ～受入れ環境の整備～**

事業⑩：	炭鉄港フリーパス		
実施主体：	交通事業者	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	炭鉄港地域を路線バスで巡ることができるフリーパスの販売		
事業⑪：	炭鉄港地方誘客事業		
実施主体：	炭鉄港推進協議会	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	観光客のニーズや満足度を調査するアンケートやモニターツアーの実施		
事業⑫：	多言語解説整備事業		
実施主体：	炭鉄港推進協議会	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	地域施設の多言語解説文を作成		
事業⑬：	三笠ジオツアー（日本ジオパークとの連携）		
実施主体：	三笠市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	地層、地質、石炭、炭鉱遺産、鉄道などの魅力を楽しみながら学ぶツアーの開催		
事業⑭：	港湾周年事業		
実施主体：	小樽市、室蘭市	事業期間：	平成 31 年度 ， 平成 34 年度
事業概要：	小樽港開港120年、室蘭港開港150年を迎えるにあたり、炭鉄港を含めた地域の歴史を振り返るイベント等を開催		
事業⑮：	撮りフェスin室蘭		
実施主体：	撮りフェス実行委員会	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	室蘭市内にある地域資源を被写体とした滞在型写真コンテストの開催		

事業⑯：	地域文化に根ざした祭りの開催 (あかびら火まつり、みかさ北海盆踊り、むろらん港まつり、おたる潮まつり 等)		
実施主体：	小樽市、室蘭市、赤平市、三笠市等	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	炭鉱や港のほか、これらに関わる食文化を生かした地域に根ざした固有のまつりを開催		
<b>繋がる ～地域の応援団～</b>			
事業⑰：	関係人口創出事業モデル事業		
実施主体：	炭鉄港推進協議会	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	地域にルーツを持つ方などを対象に、地域との継続的な繋がりを持つ機会の創出		
事業⑱：	起業等による定住の促進（地域おこし協力隊事業）		
実施主体：	夕張市、赤平市等	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	隊員が、夕張市石炭博物館や赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設において、地域住民、行政機関、関係団体と協働して地域活性化に取り組む。		
<b>支える ～多様な世代の参画～</b>			
事業⑲：	美唄サテライト・キャンパス		
実施主体：	美唄市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	地域資源としての炭鉱遺産の意義や価値についての市民講座の開催		
事業⑳：	ソラシル未来授業（シビックプライド醸成事業）		
実施主体：	北海道	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	地域で活躍する人材が主役となり、地域の歴史や文化、魅力を地域住民に発信することで、シビックプライドを醸成		
事業㉑：	三笠市炭鉱遺産学術調査、炭鉱の記憶記録事業		
実施主体：	三笠市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	炭鉱遺産の価値や保存保護等についての学術的評価の実施及び炭鉱の仕事や暮らし等の記憶を団体や個人から聴取し、記録する。		
事業㉒：	まち歩き事業（地域の歴史や産業遺産巡り）		
実施主体：	NPO法人炭鉱の記憶推進事業団	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	地域の歴史を歩きながら学ぶ市街地型フットパスの開催		
事業㉓：	おたる案内人ジュニア育成プログラム		
実施主体：	小樽観光大学校	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	市内の小学生に小樽の歴史を伝える授業を実施		
事業㉔：	小樽観光大学校「まちかど教室」		
実施主体：	小樽観光大学校	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	観光ガイドに役立つ情報を中心とした市民対象の教室の開催		